

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



地区リーダーシッププランDLP 特集号

Copy for members

To Club Presidents and Secretaries in District 2790(CHIBA)



今、なぜDLP が必要か？

地区の効果的な運営の為に

グループ再編 及び ガバナー補佐任命に関する
地区内数クラブからの反対意見に関して

編集 国際ロータリー第2790地区 地区戦略計画委員会

国際ロータリー 会長 ホルガー・クナーク

RI会長テーマ 「ロータリーは機会の扉を開く」

国際ロータリー第2790地区 ガバナー 漆原 摂子

地区スローガン「クラブが主役となり、奉仕の理念の実践を！」



ロータリーは機会の扉を開く

DLP 特集号目次

記載記事の項目を表示します。 読む際のご参考にしてください。

項 目	ページ
1 ガバナー月信特集号の発刊によせて ガバナー 漆原摂子	2
2 地区戦略計画委員会の紹介 及び ガバナー月信 DLP 特集号の発刊の経緯 地区戦略計画委員会	2
3 地区の近況と DLP	2
4 漆原摂子ガバナーのメッセージ 漆原摂子	3
5 梶原等ガバナーエレクトのメッセージ 梶原等	4
6 小倉純夫ガバナーノミニーのメッセージ 小倉純夫	5
7 グループ再編に関する検討の経過	5
8 グループ再編会議での検討	6
9 地区リーダーシッププラン（略称：DLP）	6
10 DLP の制度と我が地区に於ける運用について	7
11 分区とグループの違い	7
12 ガバナー補佐の任命に関して	8
13 ガバナーと地区運営	8
14 ロータリーの運営は民主的	8
15 グループ再編成をめぐる現状	8
16 地区戦略計画委員会としての対処	9
17 今後の対応	9
18 地区戦略計画委員会からの要望	9
19 地区戦略計画委員会の構成員	9
20 参考文献	10
21 共同声明及び各クラブからの質問や意見に対する地区側の見解	10

1. ガバナー月信特集号の発刊によせて

寒風の候 地区内クラブの皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
また日頃は地区運営にご理解を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、我が地区では次年度からのグループ再編成と、それに伴うガバナー補佐任命方法の変更と言う大きな改革に取り組んでおります。2020年7月からスタートした公式訪問に於いて各クラブでご説明申し上げた処、多くのクラブから様々な疑問やご意見を頂きました。ご承知のようにグループ再編成に強く反対の意思を表明される幾つかのクラブから反対の意向の数通の共同声明を受領し、且つその中の一部は地区内全クラブに配信されております。この共同声明への対応は地区戦略計画委員会に付託し、個別のクラブ、また合同クラブからのガバナー宛意見書等には、ガバナーより回答しております。

今般、この改革を了承していただいた地区内の多くのクラブ、また、ガバナー補佐の多数より、今一度地区としての見解を示して欲しいとのご意見を頂き、地区戦略計画委員会に対応を求めた処、このガバナー月信特集号を発刊するに至りました。

皆様にはこの月信特集号をお読みいただき、グループ再編成の経緯や DLP (地区リーダーシップ・プラン・後述8)、ガバナー補佐の任命に関してなどをご理解いただきたくお願い申し上げます。

2. 地区戦略計画委員会の紹介 及び ガバナー月信 DLP 特集号の発刊の経緯

当委員会は 2015-16 年度櫻木ガバナーが、当時の青木ガバナーエレクトからジョン・ジャーム次期 RI 会長の提唱を聞き、それをヒントに年度途中で戦略計画会議を設置した事に発します。翌 2016-17 青木ガバナーが地区戦略計画委員会を設置して地区組織図にも掲載し、以降は現在まで継承されています。

本委員会はロータリーの運営や事業の連年の継承を担保する為の組織です。また、ガバナーが意思決定をする際に意見を収集する場でもあり、頻繁に開催されています。場合によってはガバナーからの委嘱を受けて諸事の具体策を答申する役割も負います。ガバナーを中心に過去 2 代のパストガバナーと、決定済の 2 代の未来のガバナーで構成されています。

さて、国際ロータリーの機構や運営方法の進化・変革は著しく、100 年続いたガバナー制度も 10 年後には廃止する方針だとの事です。然るに、当地区では約 20 年前に義務化された DLP の考え方すら浸透していないのが現状です。

既に多くの方々のご承知とは存じますが、昨今、我が地区ではグループ再編成とガバナー補佐の決め方の変更をめぐって大きく揺れています。これも地区とクラブの DLP の考え方に乖離がある事が大きな原因だと感じております。また、DLP の考え方を各クラブに奨励して来なかった地区側の責任だとも考えております。

そこでガバナーからの要請によりガバナー月信特集号にて DLP の簡略な解説を試みる事になりました。併せて今回の波乱の経緯を説明し、地区側の見解も表明させていただきます。以下に掲げます当委員会編集の記事をご一読の上、地区側の考え方をご理解下さると共に、今回のグループ再編成とガバナー補佐の決定方法についてご理解とご協力下さる様お願い申し上げます。

3. 地区の近況と DLP

我が地区では 今まで 20 年以上続いたグループ (以前は分区) 編成やグループ内クラブの輪番によるガバナー補佐 (以前は分区代理) 輩出が続き、ともすればそれが固定で当然の事のように思われてきた

と推察します。

国際ロータリーは西暦 2000 年にロータリーの新しい活動方針である「RI 戦略計画」を定め、2002 年以降は従来とは違う、新しい地区運営の基本則である DLP（後述 8）に則った考え方の地区運営を行う事が世界中の地区の義務とされました。しかし、当地区ではその DLP はなかなか地区内に浸透していないという実情にあります。その理由として以下の事を推測します。

- ・ RI の方針が反映されづらい特殊な土壌があった
- ・ DLP は地区の問題との認識からこれを地区内の各クラブに周知して来なかった
- ・ 地区が従来の運営方法を踏襲している限り、DLP の深い考察と実施は必要なかった

これは日本の多くの地区も同様だと推測します。

そして、DLP をクラブに周知して来なかった事は地区側として深く反省しなければならないと考えます。

ここ 5 年来、ガバナーの間でロータリーや地区運営の方法が RI の方向性と乖離している事が話し合われ、これへの対策の検討が始まりました。則ち、従来の地区運営方法を変える試みを検討してきました。そして今般、その乖離を縮めようとする試みの一環としてグループの再編成とガバナー補佐の任命の手順の改革変更を実施するに至りました。

しかし、これらの総てが地区内のクラブに拘わる事であり、ここにおいて地区執行部側とクラブ側の DLP 認識の齟齬が現れた状態だと考えます。

この認識の齟齬は地区側が DLP の周知に熱心でなかった故であり、各クラブの不審や反対はむしろ当然と言うべきだと考えます。そして、このような事態に至った責任は上述のように地区側にあり、地区執行部としては深くお詫びをしなければならないと思います。

そもそも地区運営は、その基本である DLP を理解した地区執行部と各クラブとが共通の認識を基本とした協調の下にあるべきだと考えます。よって今般、月信の「地区リーダーシッププラン DLP 特集号」を発行して地区内の全てのクラブと会員の皆様に地区運営の基本の一端をお知らせする事を企画いたしました。

一方で現在、数クラブからグループ再編成やガバナー補佐候補の決定手順の変更に対して強い反対の意向が示されている事も事実であります。この事態に対して地区の運営改革を容認される多くのガバナー補佐やクラブからの ”地区側が一刻も早く今までの経緯説明と然るべき見解を示して事態の收拾を図るべきだ” という声がガバナーやエレクトに届いております。

これを受けて、当戦略計画委員会は漆原ガバナーからこの声への対応の委嘱を受けました。そして、漆原ガバナーからガバナー月信の紙面を使う事の許可を得てガバナー月信 DLP 特集号を編集し、漆原ガバナー、梶原ガバナーエレクト、小倉ガバナーノミニのメッセージを添えて、これまでの経緯と地区側の見解の説明と、併せて若干の DLP の説明を掲載させて戴きます。

また、上述の数クラブからの反対意見の共同声明やその他のクラブからのご質問、ご意見に対してはガバナー側から回答を送付しております。しかしこれらの反対意見の共同声明や意見等は全クラブに発信されているので、その回答を全クラブ全会員にもお送りする為に、回答の概略も末尾に掲示しますので併せてお読みください。

皆様には、当委員会が編集して以下にお示しました DLP の説明や地区側の見解と事態の説明をお読み下さる様お願い申し上げます

4、漆原摂子ガバナーのメッセージ

私のメッセージの冒頭に、今般のグループ再編が各クラブの皆様には唐突に受け止められたことをまづもって当地区を代表して深くお詫び申し上げます。

さて私を含めてここ数代のガバナーの間で当地区に DLP の導入が遅れ、地区内会員の方々にその理解が浸透していない事が課題となり、その対処が検討されてきました。

DLP は RI やガバナーの方向性をガバナー補佐を通じて地区内クラブに共有して頂くための効果的な方法です。そして本年度は色々な意味において我が地区の運営に DLP の考え方や手法を採り入れる試みをしております。

昨今はコロナ禍の中で多くのクラブが通常の奉仕活動が困難な状況に至っていると推察しますが、グループ再編成はこのような時に行える数少ない活動であると捉えております。またグループ再編に代表される DLP の意義を各クラブの皆さまに考えて頂く好機であろうと考えております。

グループ再編に関しましては地区内のすべてのクラブが新しい出会いを持つ組合せになります。新たなクラブとの付き合いの中で多様性を受け入れ、新しい考え方を知る扉を開いて頂きたいと思います。また、グループは固定ではありません。グループ分けのコンセプトや地区内の情勢により随時変更されてよいものです。ましてやグループ内のクラブとのお付き合いに限るものではなく、新しいグループでの新しい付き合いに加えて今までに培った元のグループ内のお付き合いは継続されて一向に構わない事は勿論です。

むしろ、グループをクラブ群の枠と考えずに自分のクラブを基本としてグループを超え地区を超え、国を超えての交友を広げる為の意識変換のきっかけにして頂きたいと思います。それは勿論、交友関係に止まらず違う文化を知る事、違う考え方を知る事、そしてその多様性を寛容で受け入れて新たな奉仕活動に発展させることの出発点と考えて頂きたいと思います。ロータリーの目的の第一は、「奉仕の機会として知り合いを広める事」です。この意味を皆様と共に深く考えてみたいと思います。

今回のグループ再編を「四つのテスト」になぞらえて考えると

真実かどうか・・・地区内の会員数の減少は紛れもない真実

みんなに公平か・・・グループ内のクラブ数の不均衡を是正して AG の負担も公平を目指す

好意と友情を深めるか・・・新たな知り合いと出会い、新たな友情を作り上げる

みんなのためになるかどうか・・・AG のより効果的なクラブのサポートを可能にして、全てのクラブの活性化に繋がる

今回の再編をこのように考えて頂くようお願いいたします。

尚、今回の二つの問題（グループ再編、ガバナー補佐選任方法）に関する反対意見では「説明不足」「突然の通知」などが主な理由とされております。地区側も事態の進行に応じて可能な限りの迅速さを心掛けて説明をさせて戴きました。しかし尚、これらのクラブが上記のような感触を持たれているに事に関しては誠に申し訳なく遺憾に存じております。

新しい事態を迎える時にはすべてに於いて不安や違和感がある事は否めません。しかし、どうかその不安や不満を超えて、新たに得るものを目指して頂きたいと思います。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

5. 梶原等ガバナーエレクトのメッセージ

冒頭に一言申し上げます。

一般のガバナー補佐選考方法につきまして輪番制から推薦指名制に変更する事に関しまして事前の通達と説明が不十分であったことにより各クラブの皆様には混乱とご迷惑をおかけしました事を深くお詫び申し上げます。

さて、私がガバナーノミニー・デジグネートに指名されてから2年が経過し、2021-22のガバナー年度本番に向かい緊張感が本格化して参りました。それに加えて皆様、御承知の様に2021年7月から当2790地区は再編成する事になりました。そして各グループを担当してくださるガバナー補佐様はエレクトである私が指名させて頂きました。

次年度ガバナー補佐候補の選び方については、従来は現ガバナー補佐（AG）の皆様にご推薦頂く方式でしたが、今般グループは14から10になることが決まり、従来14人のガバナー補佐の皆様から10人の次年度ガバナー補佐候補の推薦をお願いする事は困難でした。このことはグループの編成移行期であり、そうせざるを得ない状況であったことをどうかご理解下さる様お願い申し上げます。またDLP移行ゆえに、長年続いてきたグループ内輪番制によるガバナー補佐の選出方法を改変する初年度となりました。様々なクラブやグループから、今回の改編に対するご意見やご批判はお有りかと存じますが7月にはスタートを切らなくてはならないことも事実であります。このことも併せて御理解下さる様お願い致します。

2002年に世界中の全ての地区にDLP（地区リーダーシッププラン）の導入が義務化されましたが、日本の多くの地区と同様に当地区でも国際ロータリーが求めるDLPがあまり浸透されないまま20年が経過しました。そして、ここ数年来ガバナー補佐の方々からも、会員減少への対応やグループの会員数の均一化が求められ、2019-20諸岡ガバナー年度でその改革に大きな舵を切った訳です。グループ再編に関し今年度は地区内への周知、2021-22年度から当地区のDLPに則った地区運営をスタートさせると決まりました。

クラブは国際ロータリーの加盟会員であり、国際ロータリー定款と細則に同意する事でロータリークラブとしての認証を受けます。国際ロータリー定款と細則を遵守することでロータリーとしての活動を認められ、会員としてのすべての特権と権利を行使できます。ですから今回のことはルール上の瑕疵は無いものの、コロ

ナ禍により3大セミナー等が開催出来ず、説明不足に加え時間的な余裕がなかったとはいえ、その周知や手法に問題があったことも事実です。

この混乱に関しては、全会員の皆様に改めて深くお詫び申し上げます。

地区とはRIが定めた区割りである「地区」にRIによって振り分けられたクラブの集合体です。そのクラブを支援するためにあるのが地区組織・地区チームです。その地区の総ての統括責任者がガバナーでありRIの中間管理職の様なポジションです。その中間管理職はRIの規約に則り忠実に仕事をして参ります。勿論、クラブを構成するのはロータリアン個人ですので、会員の皆様とも融和を図れるように心がけて参ります。

また、グループ再編に関しては私の年度で、更なる再編に向けた準備検討をする組織である「地区グループ再編会議」を設置します。今回のグループ再編成は20数年ぶりの改編であり、様々なご意見やご不満もお有りかと思いますが、それらを糧として更に地区内の融和と発展を目指せるようなグループ分けの準備を始める年度にしたいと考えます。

あの2021-22年度があったから2790地区は今も健在であると5年後10年後の地区内の皆さんが振り返って頂けるようなそんな年度にしていきたいと思えます。どうぞ私の心情をお汲み取り頂き、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

6. 小倉純夫ガバナーノミニーのメッセージ

ガバナーノミニー・デジグネートに指名されてから早くも1年数か月が経ち本年度はガバナーノミニーとなりました。私は5年前にガバナー補佐になった以外、地区のことは全く知りませんでした。デジグネートに指名されて以来、様々な地区委員会のセミナーへの出席やロータリー財団委員会の副委員長としての活動でこれまでと比べて格段に広いロータリー活動を知る事が出来ました。

中でも地区戦略計画委員会において、ガバナーを中心に2代のパストガバナーや次、次々代のガバナーの皆様が真摯かつ熱心に地区の今後を考えて議論されている姿に深く感銘を受けました。その議論には一片の私心もなく純粋にロータリーや地区の未来を想う気持ちが溢れていると感じています。私もこの熱意を継承していきたいと思えます。

さて、今回のグループ再編成に関して一部クラブから異論が出ています。私はこのグループ再編成については、次のように考えたらどうかと思えます。再編成では現第7グループ以外のどのクラブも従来と同じクラブの組み合わせのグループではなくなります。どのクラブがどのグループに編入され、どのグループが分割された・・・と考えずに、82クラブの全部をシャッフルして新たな組み分けをしたと考えればいいのではないかと思います。そして、新たな顔ぶれのグループで新たな交友関係を作っていくと考えたら如何かと思えます。

どのグループに属そうとロータリーの基本はクラブと会員個人です。再編成の組み合わせ、手順などには、クラブの大小の差や地域間の差もあって初めは違和感があるものです。しかし、このグループ再編成は未来への新たな可能性を作るステージだと捉えて頂ければいいのではないかと考えます。是非とも地区内全82クラブがこのような考えになって頂き、新たな2790地区を作っていくではありませんか。

7. グループ再編に関する検討の経過

2015-16 櫻木ガバナー

各分区（当時）のクラブ数と会員数の格差を是正する為に分区再編成を計画しました。地区計画委員会を設置して具体的な検討を始め、10分区に再編する案を策定しましたが実施に移行するに至りませんでした。よって分区間のクラブ数、会員数の格差は依然として存在したままです。

2016-17 青木ガバナー

RI会長推奨のもと、地区戦略計画委員会が設置され、分区の再編成を始めとする種々の中長期取組施策について検討を始めました。クラブ訪問ではグループ再編に言及するなどの普及に努めました。分区再編成の検討は継続されました。

2017-18 寺嶋ガバナー

エレクト時分の三大セミナーで、櫻木年度から懸案となっている分区の再編成のことに触れ、「具体策を地区戦略計画委員会にて検討してもらっている」と明言しました。

この事は三大セミナー冊子に印刷されているので、今後に於いて再編が具体化されることは、各クラブ

にも周知されていると認識します。 分区再編成の検討は継続されました。

2018-19 橋岡ガバナー

分区制度から DLP（後述8）のグループ制度への移行の意識付けのため、「分区」の呼称を「グループ」に改称しました。 これに伴って新たなグループ番号を採用しました。

2019-20 諸岡ガバナー

グループ再編成の結論を先送りする事の不利益に鑑みて地区戦略計画委員会の傘下に「グループ再編会議」を設置してグループ再編の促進を図りました。

同会議の検討により 10 グループに再編する事を決定し、併せて次年度を周知年度とし、次々年度から実施するというスケジュールも決定しました。

2020-21 漆原ガバナー

前年度の決定により地区内にグループ再編を周知する役を負い、本年度中にガバナー補佐を内定する必要を帯びた梶原ガバナーエレクトと共に地区内を説明に廻っています。

8. グループ再編会議での検討

8-1 グループ再編案の決定の過程

地区リーダーシッププラン：DLP（後述8）に基づき色々な案が作られました。

また、ガバナー補佐が適宜なクラブ群を担当するガバナー補佐が中心の地区運営であることを重視しました。 以下にグループ再編案の決定の過程の概略を述べます。

- a) 当初、諸岡 DG、及び地区戦略計画委員会は、
 - ① 8グループに再編成する
 - ② グループ別クラブ数・会員数の格差是正を図るをグループ再編成の目標とし、再編案検討をグループ再編会議に指示しました。
- b) グループ再編会議はこの方針に基づき8グループ再編案を策定したが、クラブ数が 12 から 13 となるグループが出来ることなどにより、ガバナー補佐の負担が大きいとの理由で 2020 年 1 月に開催された拡大地区戦略計画委員会において、再編成の方針を 10 グループとするよう提案した。その結果、地区戦略計画委員会は以下の方針でグループ再編成案を策定するよう指示しました。
 - ① 10 グループに再編成する
 - ② グループ別クラブ数・会員数の格差是正を図る。
 - ③ 上記の方針に基づきグループ再編会議が複数のグループ再編成案を策定し、その中から地区戦略計画委員会が決定する
- c) これを受けてグループ再編会議は、今回の 10 グループ再編案とその他の 2 案の計 3 案を策定しました。次いで、諸岡ガバナー試案、櫻木年度に並木委員が策定した案、及び、上記の 8 グループ案を加えた合計 6 つの案につき検討・評価を行いました。その上で、今回の 10 グループ再編成案が地区戦略計画委員会の方針に一番近い旨のコメントをつけて地区戦略計画委員会に「グループ再編会議報告書」を答申しました。
- d) この報告書を受け、6 月 27 日の地区戦略計画委員会が、グループ再編会議が推奨した今回のグループ再編案の採用を決めると共に、実施時期を、当初考えられていた 2022 年 7 月ではなく、2021 年 7 月としました。
- e) この結果を受け、諸岡ガバナーは、地区戦略計画委員会が決定した事項をガバナーとして採用することを決定しました。

8-2 次年度以降の各年度の役割

上記の決定により次年度以降の役割は下記ようになります

2020-21 年度 漆原ガバナーは地区内にそれを周知する役を負う

2021-22 年度 梶原ガバナーがそれを実施する役を負う

これに連動して梶原ガバナーエレクトは自分の年度から実施される 10 ブルーフ分けに応じて 10 人のガバナー補佐を任命する事になりました。

9. 地区リーダーシッププラン（略称：DLP）

1900 年代の末頃に国際ロータリーは今迄のロータリーの運営を根本的に見直す事を検討し、その成果として 2000 年に RI 戦略計画を策定しました。国際ロータリーは、1997 年 7 月に地区リーダーシッププラン（略称 DLP）を試験的に導入しましたが、2002 年 6 月 30 日以降は地区による導入を義務化しました。

10. DLP の制度と我が地区に於ける運用について

2002-03 年度から世界中の地区の運営には DLP に則った地区運営をする事が義務づけられました。DLP に於いて最も重要な要素は、ガバナーにロータリーや地区の将来展望を描き、それを実現させるというガバナー本来の役目を果たす余裕を持たせることです。

そのために、必要なのは

- ・ガバナーの分身として担当するクラブの活動活性化に資するクラブの指導・支援等を含めた管理業務遂行が出来るガバナー補佐の任命、
- ・相応しいガバナー補佐と地区委員会が互いの役割を果たして有効に機能する事、
- ・新しいロータリーの運営やロータリーの本旨を会員に知ってもらうための研修

です。

故に当然ながら DLP にはガバナーエレクトが相応しいと考えるガバナー補佐を任命する事も含まれます。

当地区では 2002-03 鈴木雅博ガバナー年度に、それまでの「分区代理」を「ガバナー補佐」に改めるなど、一早くこの DLP の制度を採り入れました。

しかしそれ以降の年度では種々の事情から DLP のさらに深い考察と普及が進まない状態が続きました。

「DLP」と言う言葉はガバナーの間ではしばしば話題に上りました。我が地区では 2009-10 中村博巨ガバナー年度に CLP の導入を試みましたが、それ以降の年度に CLP の普及が頓挫したこともあり、国際ロータリーが提供した効果的なロータリー運営の考え方が地区内に浸透しない状態が続きました。

上述第5に示すように 2015-16 櫻木ガバナー年度から分区再編に着手し再編案の一応御結論を出しましたがそれを実施に移行するには至りませんでした、2018-19 橋岡ガバナー年度に従来の「分区」を「グループ」と改称するなどを経て、「ガバナー補佐」「グループ」など DLP に則った呼称が整いましたが、DLP が、本来意味する処の地区運営を探究するには至らず、当地区の運用や地区内の多くのクラブに於ける意識は依然として「分区代理」「分区」から殆ど変わらない延長線上の認識が 10 年以上続きました。

2019-20 諸岡ガバナー年度によりやくグループ再編案を確定し、実施のスケジュールを組むに至りました。このように長年続いた意識を変える事は非常に難しく、グループ再編一つをとっても実施に至るまでには 5 年を要しました。

しかし、グループ再編も言わば制度面での事であり、我が地区内に DLP の真価である“内容”が浸透するには DLP を理解するガバナー補佐が DLP を理解するクラブ群を指導管轄するに至る事が必要だと考えます。

則ち、我が地区内の全クラブの全会員が従来とは違う「ガバナー補佐」の職務や「グループ」というクラブ群の意味するところを理解する迄の研修が求められます。

11. 分区とグループの違い

国際ロータリーは、地区内クラブ数及び地区の地理的範囲に応じて、地区内隣接クラブが 1 つのグループとなるように地区内を複数の地域（分区）に区分し、各分区に、所属したクラブの管理者として成功した元会長を分区代理として任命し、日常の管理事務、ガバナーの非公式の助言者として分区内クラブの非公式訪問、クラブの活動のガバナーへの報告、IM の企画・実施等を行うよう求めました。

一方、DLP で導入されたガバナー補佐は、ガバナーの公式な補佐役で、元会長であることは分区代理と同じですが、ロータリーのオンラインツールを含めてクラブや地区やロータリーに対する知識があること、リーダーシップスキルを備えていること、地区行事への定常的な参加が資質として求められると共に、担当するクラブの管理業務遂行、モチベーション高揚及び目標設定・実現の支援・問題点解決、評価と活動強化のリーダー指導等の責務遂行が求められています。そして、IM の企画・実施の責務は廃止されました。

以前の制度では分区は公式なものでしたが分区代理は非公式な役職でした。

一方、上記の DLP ではガバナー補佐は公式の役職ですがグループの決め方については何らの規定もありません。則ちガバナー補佐が担当するクラブ群である「グループ」の編成方法はガバナーが決める範疇にあります。

よって、グループは固定的なものではなく、地区の情勢やクラブ管理上でのガバナーの考え方によって変更され得るものであります。

更には、クラブ同士の親睦を構築する事を目的とした区分けの枠ではありません。

ロータリーの基本はクラブと会員個人であり、グループ再編成でクラブがどのグループに属しても自らをしっかりと保ちながら新しい友好を深めて頂きたいと思います。

以前の分区制度を御存じの会員の方々には、分区とグループの違いの意識転換をお願いいたします。

過去には分区の中から分区代理が選ばれましたが、DLPでは必ずしもそうではありません。先ずガバナーのクラブ管理を分担するガバナー補佐が選られ、次いで各ガバナー補佐が担当するクラブ群が割り振られます。ガバナー補佐の活動はガバナーの負担を軽減する意味もあり、担当するクラブ群にRIの考え方やガバナーの意向を浸透させるなどの役を負うガバナーの側に立つべき役職です。決してクラブ群側の意見代表ではありません。ガバナー補佐の皆様にはこの認識を持って頂きたいと思います。

12. ガバナー補佐の任命に関して

従来は、分区代理制度の長年の慣例で、一般的にグループ（分区）内クラブが設立順の輪番で年功序列によりガバナー補佐候補を選び、ガバナー補佐が後任として推薦してきました。しかし、グループ内のクラブ数や会員数の差が大きいため輪番制はガバナー補佐の負担やクラブがガバナー補佐を輩出する頻度に大きな差が生じました。輪番制にはその他の幾つかの問題点を含むことから、2017-18年度頃からこれを改める検討が始まりました。

2018-19年度に、漆原年度のガバナー補佐選出にあたり、橋岡ガバナー、諸岡ガバナーエレクト、及び漆原ガバナーノミニー連名でグループ内クラブの輪番制に拘らないガバナー補佐の推薦を求めました。それ以降の年度に於いてもこの意向の発言があり、この意向はガバナー補佐を通じて各クラブにも周知されていると考えます。

2019-20年度、諸岡ガバナーの地区大会にて梶原ノミニーが自分の年度のガバナー補佐は自分が選ぶことを発表しました。この事は地区大会記念誌にも掲載されているので各クラブにも周知されていると判断します。

13. ガバナーと地区運営

ガバナーは国際ロータリーから組織規定（3つ基本的な規定）及びその集積であるロータリー章典の下で地区内クラブを管理監督する任務を与えられています。地区運営に於いては組織規定に記されていない事はガバナーが決めます。これは則ち、クラブは組織規程に制約された範囲内での自主権ないし自治権を有することを意味するとご理解いただきたいと思えます。

クラブには限定的ながら自主権がありますが、その一方でクラブには義務もあります。ガバナーにはクラブ管理上の必要性により地区内クラブを訪問する義務があります。クラブはそれを受ける義務があり、それを拒否する事はクラブの義務を放棄したことになり、RI細則の「クラブの機能喪失」条項に即該当します。従ってロータリークラブとしての資格の存続に係わる事になります。各クラブは組織規定を遵守するという約束の元にロータリークラブとしての権利と国際ロータリーへの加盟を許されているからです。

14. ロータリーの運営は民主的

RI会長と会長予定者、及びRI理事は間接ではあるが民主的な手法で選任されています。これらの人により構成されるRI理事会が組織規定に則って世界のロータリーの諸事を決定します。地区ガバナーも民主的に選ばれ、RI側の一員としてRI理事会の監督下にあります。一方、ロータリーのルールである組織規定は3年ごとの規定審議会で民主的な投票によって決定、変更、廃止されます。

民主的に選ばれたRI理事会が民主的に決められるルールに則って行う決定に各クラブが従う事が民主的であると考えます。これをクラブに例えると、民主的に選ばれたクラブ会長や理事会が決めた事にクラブの会員が従う事も民主的です。

15. グループ再編成をめぐる現状

上記により漆原ガバナー、梶原ガバナーエレクトは責務を果たすべく、小倉ガバナーノミニー・鶴沢ガバナーノミニーデジグネットもできる範囲内で各々の役割を果たすべく活動しています。

当初は地区内でも少なからぬクラブやグループが反対を表明しましたが、漆原ガバナーや梶原エレクトその他の関係者が説明に廻り、殆どのクラブやグループは納得して頂いております。このような地道な努力により多かった反対意見の殆どが沈静化した状態ですが、一部に反対するクラブ及びそれを支持するクラブもあります。

地区執行部側は DLP の考え方に則った運営こそが国際ロータリーと世界のロータリーの趨勢に伍し、我が地区のロータリー活動の将来の発展に寄与するとの信念に基づき、漆原ガバナー、梶原ガバナーエレクト、小倉ガバナーノミニー、鶴沢ガバナーノミニー・デジグネットが力を合わせ、不退転の決意のもとにこの改革を推進する決意です。

16. 地区戦略計画委員会としての対処

当委員会はガバナーを支援する立場で意見を具申する委員会として、以下のように考えます。当地区内に DLP に則ったロータリー運営を普及する事が不可欠であり、地区としての責務です。少なからぬクラブにおける DLP の認知度が低いと思われる我が地区に於いては、その普及こそが地区運営上で求められる事であります。

よって、地区内に DLP 考え方を普及・浸透を図り、併せて各クラブに CLP を強く推奨する地区戦略が必要だと判断し、それに関する提言を行う必要があると考えます。これを推進する機運のきっかけとなった本年度と、それ成就させるべきこの数年間が我が地区のロータリーを次世代に継ぐ為の大きなターニングポイントになると確信します。更に、当委員会には今回の混乱を収めるための具体的な方針を提示する責任があると考えます。

17. 今後の対応

地区内の諸問題に対応する為に地区戦略計画委員会の傘下に実務グループとして以下の対策グループを作りました。

ガバナー補佐問題	地区指名委員会に委嘱し、同委員会はその任を終えました
その他の地区内の諸問題	地区問題対策特別チームを設置して担当して頂きます 【構成員】 関口徳雄、宇佐見透、櫻木英一郎 以上 PDG 必要に応じて随時追加することを可能とする

これらのチームが地区内に DLP の考え方を浸透させ、併せて今回の問題を含めた諸問題の決着の方向性を探る活動をします。

18. 地区戦略計画委員会からの要望

ロータリーは世界組織です。世界中の地区やロータリークラブが世界共通の規則に則って基本的な運営がなされ、その上で各々独自の活動を行っております。

この運営の基本を理解し、それに則ったロータリー活動を心掛けるようお願いします。

ロータリーの本旨は奉仕活動です。親睦や友好は奉仕活動を活発にするための一つの手段或いは要素であり、親睦そのものがロータリーの目的ではありません。

地区が大きな目標に向かおうとしている現在、ロータリーの目的に焦点を宛てて頂きたいと思ひます。

変革期には往々にして色々な要素からの大きな波が起こります。その波を更に大きくしようとする人が出る事もあります。

しかし、起こされた波の彼方に視点を当てて下さる様お願い申し上げます。

19. 地区戦略計画委員会の構成員

国際ロータリーの指導によりガバナーが設置する公式組織です。

構成員は毎年変わり、本年度の構成は以下です。

議長 橋岡久太郎 (PDG・佐倉中央 RC)
構成員 委員長：漆原摂子 (DG・勝浦 RC)

委員：諸岡靖彦（IPDG・成田 RC） 委員：梶原等（GE・千葉 RC）
委員：小倉純夫（GN・松戸 RC）

20. 参考文献

国際ロータリー定款 国際ロータリー細則 ロータリー章典 及び地区リーダーシッププラン

21. 共同声明及び各クラブからの質問や意見に対する地区側の見解

今回のグループ再編やガバナー補佐選任方法の変更に対して反対する立場での複数の意見書や共同声明、抗議文が届けられ、同時に地区内の全クラブと全パストガバナーにも配信されました。

地区は、グループ再編成白紙撤回を求めるクラブの個別、あるいは合同抗議状・意見書等には、提起された問題点に対する地区の見解説明・回答を文書で行ってまいりましたが、上記の共同声明や抗議文が全クラブに送られている事に鑑みて、寄せられた質問や広義の抜粋と地区側の回答及び見解の抜粋をここに皆様の供覧に付します。 ご一読の上お考えください。

A グループ再編成に関しての質問、意見、抗議に対する見解

- 1 グループ再編成案の白紙撤回を求める。
(回答) 多くのクラブは同意をいただいております。現ガバナー補佐も次年度新グループへの移行の準備に入っておりますので、今から14グループに戻すことは更なる大混乱を招くと推察します。また、次年度梶原年度で、グループ再編検討委員会を立ち上げています。
- 2 国際ロータリーに調停を申請する。
(回答) 地区側はそれを止める権限はありません。
- 3 ロータリーはガバナーが一方的に決めて通知するという方法でいいのか。
(回答) 民主的に選ばれた管理者（RI 会長、RI 理事会及びその管理下にあるガバナーなど）が民主的に定められたルール（組織規定、RI 理事会決定及びその有効な集大成であるロータリー章典）に従って行う行為は民主的であると解釈します。これを、地区側の一方的と表現することは相応しくないと考えます。
- 4 地区がクラブの意向を聞かずに一方的にグループを再編成するのは、非民主的である。
(回答) グループの編成は DLP に基づいて決定するガバナーの権限であり、上の回答に既述したように非民主的とは言えません。
- 5 このグループ再編成は地区の今後の運営に禍根を残すのではないか。
(回答) ガバナー・ガバナーエレクト・ガバナーノミニ・ガバナーノミニデジグネートが一致団結して、地区全体のよりよい運営を目指します。
- 6 グループ再編成に於いてはクラブの意向を訊くべきだ
(回答) 長く続いた分区をそのまま継承したグループに多くのクラブが慣れてしまっている現状があります。次年度以降、グループ再編会議を再度立ち上げ、地区の中長期計画に向けて、より良い運営を目指します。
- 7 事前にグループ再編成という情報が全くない状態のままいきなり具体的な再編成の通知が来たことはが余りにも突然である。
(回答) 5 年前から分区の再編成は検討され、その後の歴代のガバナーも何らかの形で公にこの事に言及しています。
具体的な 10 グループ案が決まったのは諸岡ガバナー年度の 2020 年 6 月 27 日です。
漆原ガバナー年度の同年 7 月 11 日のガバナー補佐会議にて 10 グループ案が発表されました。
この会議にガバナー補佐の皆さんが出席されていたら各クラブに情報が伝わっていると考えます。
よって、事前に情報が全くなかったという事はないと考えます。
また、具体案を初めて発表する時が“いきなり”である事は否めません。
本月信の「6. グループ再編に関する検討の経過」ご参照
- 8 20 年前の第 3 分区を AB に分割した時は各クラブの意向を訊いたので、それと同様にするべきだ。
(回答) 20 年前は当時の第 3 分区内の 13 クラブを 2 分割しました。この時は一つの分区内のクラブ群を分割するので各クラブの意見を聞いたと考えます。この時は第 3 分区という大枠を変

えてはいません。今回は地区内の14グループの枠を全部撤廃して新たに10グループの枠組みを新設しました。よって、20年前と同様ではありません。

9 RI細則には、「地区の境界を変える時にはクラブの過半数の反対がある場合にはやるべきではない」という趣旨の規定がある。グループ再編もこれと同様に行うべきだ。

(回答) RI細則には、地区の再編に関しては規定がありますが、グループの編成については規定がなく、組織規程に基づきガバナーの権限の範疇です。

10 現グループが分断されるのは、14グループ中、第2、第4、第5、第9、第14のみであり、特に3分割される第4グループに対して甚だしく不公平である。

(回答) 全82クラブを10に区別したのであり、既存のどのグループを分割するという考えではありません。

11 分断されないグループには地区の要人がいるが、このような情実があってもよいのか

(回答) 再編成案を作るに当たってそのような私情を挟む余地はありません。

12 現グループの分断により、長年の間に構築されてきたグループ内クラブの友好関係が破壊されると共に、今後の活動に支障を来す。

(回答) グループ分けはクラブ同士の友好関係を築く為ではありません。また、新しいグループ内で新しい友好関係を築くことが可能です。活動の主体はクラブなのでグループ分けが変わっても活動に支障をきたす事はないと考えます。

13 新型コロナ禍の今、何故、グループ再編成を行うのか?

(回答) 地区やクラブに於いて通常の奉仕活動が少ないこの時期こそ臨時の事項であるグループ再編成を考える好機だと捉えます。

14 問題が生じているグループに関係する範囲の再編成を一部保留できないか?

(回答) 当初は不賛成であったが漆原ガバナー等の説明・説得等により承諾して頂いたクラブ・グループが多々あります。その結果、多数のクラブに再編成案を容認して頂いています。また、地区内の全クラブを動かした案なので一部分だけを保留することは受け入れられません。

B ガバナー補佐選任の方法に関する質問、意見、抗議に対する見解

1 ガバナー補佐の決定の手順は何故従来の輪番制ではいけないのか?

(回答) 輪番制では事実上は当番クラブから一人が推薦されます。いわば特定のクラブからのみの推薦となります。しかしグループ内には多くの適任者がいらっしゃると思います。梶原ガバナーエレクトの意図である「推薦指名制」では次年度に限らず将来のガバナー補佐としての適任者を多く推薦して頂き、その方々の中から次年度のガバナー補佐として最適な人を選ぶと言うやり方です。ガバナー補佐候補の選択肢を広げる意味があります。また、DLPではグループ内クラブ群以外からガバナー補佐を任命する事も可能です。

2 自分の好きな人をガバナー補佐に起用するような事が平等と言えるのか? それガバナーとしてやることか? 輪番で決まった人を使えないようで、リーダーシップと言えるのか?

(回答) ガバナー補佐、地区委員長などの地区チームはRIの方針のもとにガバナーの想いを実現する為にガバナーが組織します。その為には年功序列や輪番等ではなくガバナーの意向を理解する人を任命する事が必要です。これは地区委員会の委員長を選ぶ場合と全く同じ事です。このようなチームを編成して持続可能で効果的な活動を作り出すのがガバナーとしてのリーダーシップだと考えます。また、チーム構成員選考の段階でガバナー(エレクト)の独断にならない様に地区戦略計画委員会の意見を求めます。

3 既に何年も前から決まっているガバナー補佐予定者はどうすれば良いのか?

(回答) 今後のガバナー補佐候補の一人としてご推薦ください。

4 輪番も、良き慣例といったルールではないのか?

(回答) 勿論それも言えます。しかし基本的には成文法が優先で、多くの場合はそれを適用します。どちらを採るかはガバナーが決め、次年度に関する事はガバナーエレクトが決めます。